

事業所における訓練方法の例

登録講習機関(一般財団法人日本防火・防災協会)教材
「誰でもわかる消防訓練」抜粋

平成29年5月12日

消防庁

消火訓練 ③

2人で操作できる屋内消火栓を使う場合

2人で操作できる
屋内消火栓の場合
人数 **2人**~



目的

屋内消火栓を使った消火方法を身につけましょう。
(実際には放水せず、使うまでのシミュレーション訓練であっても十分な効果があります。)



これは2人操作の
屋内消火栓です。

15mのホースが
2本入っています
(ホースが1本で
足りないときはつ
なげます)。

タイムライン

2分

10分

使い方 屋内消火栓の

屋内消火栓による消火

あなた (防火管理者) の指示

- ▶ 訓練の目的と、屋内消火栓の使い方について説明しましょう。
- ▶ 「屋内消火栓は、消防隊が使うものではありません。火事になったときに私たちが使うものです。使い方は、①起動ボタンを押す、②ホースを延ばす、③バルブを開ける、そして④放水です。」

- ▶ 訓練を行う人たちの役割 (Aさんは屋内消火栓担当役、Bさんはノズル担当役などと具体的に) を説明し、訓練開始の合図を行いましょ。
- ▶ 「〇〇時〇〇分から、訓練を開始します。位置についてください。訓練、開始！」
- ▶ 「火災が発生しました。AさんとBさんは、屋内消火栓に駆けつけてください。Aさんは、屋内消火栓の起動ボタンを押して、表示灯が点滅するのを確認し扉を開けてください。」
- ▶ 「Bさんは、ホースとノズルを取り出して、ホースが折れないように延ばし、「放水始め！」と合図をします。」
- ▶ 「Aさんは、バルブを全開にしてください。」

役割

A 屋内消火栓担当役



B ノズル担当役



場所

屋内消火栓がある場所

用意するもの

- 火災が発生した場所に置く目印 (目印になればどのようなものでも可)

1人増えることに必要な
時間の目安は10分です。

訓練時間

最短 **10** 分

使い方

1 起動ボタン起動



起動ボタンを押して、消火栓ポンプを起動させます。

2 ホース延長



ホースにねじれがないように確認しながら延ばし、出火箇所に向かいます。

3 バルブ開放・放水



出火箇所に接近した捜査員の放水準備ができたら、「放水始め！」の合図で、屋内消火栓のバルブを開放し、放水します。

みんな (従業員) の動き

- Aさん、Bさん
：防火管理者の説明を聞いて理解しましょう。
- 他の従業員：同じように説明を聞きましょう。
(自分が行くことをイメージして！)

- Aさん：屋内消火栓に駆けつけ、屋内消火栓の起動ボタンを押して表示灯が点滅するのを確認し扉を開けます。
- Bさん：屋内消火栓に駆けつけ、ホースとノズルを取り出し、脇の下に抱えて、ホースが折れないように延ばします。「放水始め！」
- Aさん：「放水始め！」と繰り返してバルブを全開にします。

他の従業員：同じように説明を聞きましょう。
(自分が行くことをイメージして！)

POINT

あなた

- ▶ どこに屋内消火栓ポンプがあるか知っておきましょう。
- ▶ 操作する人数を説明しましょう。
・2人で操作できる屋内消火栓は、15mホース2本が入っています。

あなた

- ▶ 起動ボタンを押さないと消火栓ポンプから水が送られないので、必ず起動ボタンを押すよう伝えましょう。
- ▶ 屋内消火栓ポンプから圧力の高い水が送られるので、反動力で引っ張られないように、ノズルの付け根は腰骨に乗せて利き手でしっかり押さえ、前傾姿勢で放水するようアドバイスしましょう。
- ▶ 消火ホースやノズルを離すと、水の圧力でホースがうねります。けがをしないようにノズルはしっかりと持ちましょう。

☆自分の会社にある屋内消火栓の場所やタイプ (1人操作、2人操作) を確認しておきましょう。
☆水を出して行う訓練は、特に効果的です。消防設備の点検と併せて訓練をすることもできます。

▶ 防火管理者の方は、訓練を行う前にP26の「消火訓練②③ (屋内消火栓)・指導内容チェックポイント」を確認しておきましょう。
▶ 訓練後に講評を行うときは、P26に講評の文章例があるので参考にしてください。

発見・通報訓練 1

従業員が火災を発見した場合

人数 3人~



目的

従業員が火災を発見した場合の対応方法と119番通報の方法を身につけましょう。

タイムライン

1分

火災の発生を報告

あなた（防火管理者）の指示

- ▶ 場所別火災想定カード（※1）を使いましょう。
- ▶ 訓練の目的、従業員が火災を発見した場合の動きと119番通報の方法を説明しましょう。
- ▶ 訓練を行う人たちの役割（Aさんは火災発見者役、Bさんは通報役等と具体的に）を説明し、訓練開始の合図を行いましょう。
- ▶ 「〇〇時〇〇分から、訓練を開始します。位置についてください。訓練、開始！」

2分

通報 119番

- ▶ 通報内容等についてタイミングをみてアドバイスしましょう。

アドバイス（例）

- はっきりと言いましょ。
- 本当に火災が起きたつもりで行いましょ。



みんな（従業員）の動き

- Aさん：「火事だー！」と大声で火災の発生を知らせましょ。
- その後内線電話（携帯電話）で事務室に、火災の発生と火災の状況を連絡しましょ。
- Bさん：「〇〇階の〇〇（※1）から火災が発生。119番通報を行います。」
- 他の従業員：訓練を見学（自分が行くことをイメージして！）

3分

訓練の講評（検討等）

- ▶ 「訓練を終了します！」
 - ▶ 訓練を見て感じたことを話し、具体的に指導しましょ。
- 例：「実際の火災に遭ったらとても慌てると思いましょ。もっと真剣に取り組んでください。」

- ▶ 訓練をした人も見学した人も、防火管理者の講評や指導内容を聞いて理解しましょ。
- ▶ 疑問があつたら、そのままにせず質問しましょ。

5分

119番通報についての習得

- ▶ AさんとBさんの役割を替え、場所別火災想定カード（※1）を活用して、119番通報訓練を行いましょ。

- ▶ 順次、場所別火災想定カード（※1）に応じて、119番通報訓練を行いましょ。

役割

- A 火災発見者役
- B 通報役
- C 消防署員役

場所

どこでも（火災の発生を想定した場所等）

用意するもの

- 内線がかげられる電話（携帯電話でも可）
 - 場所別火災想定カード（※1）
 - 消防署員役セリフカード（※2）
- （※1）（※2）はP32にあります。コピーしてお使いください。

1人増えるごとに必要な時間の目安は3分です。

訓練時間

最短 5分

POINT

みんな

- ▶ 周りにいる従業員に火災の発生を知らせましょ。
- ▶ 落ち着いて大きな声で火災の発生を伝えましょ。
- ▶ 電話で伝えるときは火災の発生場所をもう一度言い、事務室にいる従業員に火災の発生を知らせましょ。
- ▶ 落ち着いて119番通報を行いましょ。

みんな

- ▶ 消防署員役が聞き間違いをしないように「〇丁目〇番〇号」と具体的に伝えましょ。
- ▶ ビルの名前があればその名前と、店名や会社の名前を伝えましょ。
- ▶ 周囲に目印となる建物があれば伝えましょ。
- ▶ 逃げ遅れた人がいる場合は、その情報を伝えましょ。

あなた みんな

- ▶ 訓練した日と内容（例：通報訓練）は、業務日誌等に記録しておきましょ。

あなた

- ▶ 場所別火災想定カード（※1）をあらかじめ準備しましょ。
- ▶ 訓練時間内にできるだけ多くの従業員に訓練を行ってもらいましょ。

▶ 防火管理者の方は、訓練を行う前にP24の「発見・通報訓練 1②・指導内容チェックポイント」を確認しておきましょ。
▶ 訓練後に講評を行うときは、P24に講評の文章例があるので参考にしてください。

避難・誘導訓練

誘導灯の確認も含む

人数 2人



役割

A 避難・誘導担当



他の従業員：避難役



場所

どこでも（階段を使うので、その近辺でも可）

用意するもの

- メガホンなど（あれば）
- 場所別火災想定カード（※1）（P32）

訓練時間

最短 6分

目的 火災が発生した場合の避難方法と誘導方法を身につけましょう。

これが「誘導灯」。自分のいるフロアのどこにあるか確認しましょう。



避難階段の入り口です。



訓練では、必ず階段を使いましょう！



火事のときにエレベーターは使ってはいけません！だから訓練でも使えません。

タイムライン

2分

訓練の目的と避難・誘導の方法を説明

あなた（防火管理者）の指示

- ▶ 訓練の目的と訓練を行う人たちの具体的な動き方（Aさんは避難・誘導担当、他の方は避難役など具体的に）を説明します。
- ▶ 「避難するときは、誘導灯を目印にしましょう。」
- ▶ 「エレベーターを使わないで、階段で逃げましょう。」
- ▶ 「Aさんは、〇〇側階段にお客様や他の従業員の避難・誘導を行い、フロアに残っている人がいないか確認しましょう。」

みんな（従業員）の動き

Aさん、他の従業員：防火管理者の説明を聞いて理解しましょう。



POINT

あなた

- ▶ エレベーターを使わないことを徹底しましょう。
- ▶ 避難誘導のときはメガホン（あれば）を活用しましょう。

みんな

- ▶ 疑問があれば質問しましょう。

4分

避難と誘導

- ▶ 訓練開始の合図を行いましょ。
- ▶ 「〇〇時〇〇分から、訓練を開始します。位置についてください。訓練、開始！」
- ▶ 「自動火災報知設備が作動し、ベルが鳴りました。火災が発生した場所は〇〇階の〇〇（※1）ですので、Aさんの誘導のもと、〇〇側の階段を使って避難しましょう。避難する人は誘導灯も目印にしてください。」

Aさん：「火災が発生した場所は〇〇階の〇〇ですので、〇〇側の階段を使って避難してください。皆さん、こちらの階段ですよ。」と自ら率先して避難する階段に誘導し、避難をリードします。

他の従業員：Aさんの指示のもと、階段を下ります。

みんな

- ▶ どこに誘導灯があるか、きちんと確認しましょう（誘導灯は緊急時に避難ルートを示す、大切なツールです）。

6分

実際に避難する

- ▶ 訓練者がけがをしないように安全に配慮します。

他の従業員：階段を下り、避難します。

Aさん：フロアにお客様（他の従業員）がいないか確認します。

あなた みんな

- ▶ 高層の建物で、階段を使って外に出るのが大変な場合は、下のフロアへの移動でも構いません。

▶ 防火管理者の方は、訓練を行う前にP28の「避難・誘導訓練・指導内容チェックポイント」を確認しておきましょう。
▶ 訓練後に講評を行うときは、P28に講評の文章例があるので参考にしてください。

防火戸・防火シャッターの訓練

防火戸や防火シャッターの確認

人数 1人~



目的

防火戸や防火シャッターの場所と、きちんと動くかを確認しましょう。

これが防火戸

常に開まっているタイプ、常に開いているタイプの2つがあります。



開いているとき



閉まっているとき

役割

A 防火戸、防火シャッター操作役



他の従業員は見学し、Aさんが訓練を行った後、各自で行ってみましょう。

場所

防火戸や防火シャッターがある場所

用意するもの

● なし

訓練時間

最短 4分

これが防火シャッター

シャッターは、緊急時に自動的に閉まります。



防火管理者であるあなたは、訓練前に防火シャッターの操作方法を確認しておきましょう。

タイムライン

2分

説明
訓練の目的と防火戸や防火シャッターの

あなた（防火管理者）の指示

- ▶ 訓練の目的を説明します。
- ▶ 防火戸と防火シャッターの確認を、訓練に参加している全員で行います。
- ▶ 「これからみんなで防火戸と防火シャッターを確認します。場所も一緒に確認しますので、私についてきてください。」

みんな（従業員）の動き

- Aさん
- ▶ 防火管理者の説明を聞いて理解しましょう。
 - ▶ 防火管理者と一緒に動きます。
- 他の従業員：同じように説明を聞きましょう。
(自分が行うことをイメージして！)

POINT

あなた

- ▶ 防火戸や防火シャッターを閉めることで火災が広がるのを防ぐことができ、避難ルートを確認できることを説明しましょう。

4分

確認
防火戸や防火シャッターの

- ▶ 防火戸や防火シャッターがある場所に全員で向かい、防火戸や防火シャッターが開いている（閉まっている）か確認しましょう。
- ▶ 「これが防火戸（防火シャッター）です。開けたり閉めたりしましょう。」



- Aさん
- ▶ 防火管理者のアドバイスのもと、防火戸や防火シャッターがどのような状況なのか（いつも閉まっているのか、開いているのか）を確認し、実際に開けたり閉めたりしましょう。
- 他の従業員：同じように説明を聞きましょう。
(自分が行うことをイメージして！)

あなた

- ▶ 防火戸や防火シャッターの開け閉めは、安全に気をつけて行いましょう。

- ▶ 防火管理者の方は、訓練を行う前にP27の「防火戸・防火シャッターの訓練・指導内容チェックポイント」を確認しておきましょう。
- ▶ 訓練後に講評を行うときは、P27に講評の文章例があるので参考にしてください。